



切磋琢磨

【発行日】平成29年10月19日

【発行者】角田高等学校

校長:鈴木 琢也

【連絡先】0224-63-3001

損得だけではない、必要な無駄がある

「虚空裏(にくうり)にくさびを打つ」という禅の言葉があります。空気の裏側に釘を打つという全く役に立たない無駄な行為のことを言います。しかし、一見無駄に思えることの中にも、見方を変えれば得られるものがたくさんあります。要は、気持ちの持ちようです。無駄と思ってしまうえば、それは本当に無駄になりますが、ここから何が学べるだろうという意識を持てば、そこは一瞬で素晴らしい学びの場に変わることがあります。世の中には、損得だけでない必要な無駄があると思います。

10月2日(月)の後期始業式では、前期の活躍の様子を振り返り、特に文化部のボランティア活動への参加と野球部の秋季高校野球県大会ベスト4の活躍を取り上げて講話をしました。

ボランティア活動を通して、人のため社会のために貢献することや、人に頼りにされる経験をするのは、将来の生きがいややりがいにつながるとも大切なことだと思います。また、野球部が本校始まって以来初の県ベスト4になりましたが、今回の強さの背景に何かあるのかを考えると、毎日の練習は勿論ですが、すれ違う度に気持ちよい挨拶をしてくれる野球部員の日々の行いが今回の好成績に結びついたのでないかと感じます。ボランティア活動に参加したり、心を込めて挨拶をするという日々の積み重ねは、誰かのためにやることではなく、実は自分自身を成長させるためにあるのだと思いますので、他の生徒も手本にしてほしいと話をしました。

さらに、10月22日には宮城県知事選、そして衆議院選挙がありますが、3年生の約半分の生徒は18歳になりますので選挙権を有することになります。これからこの地域や日本を背負っていく若い生徒達には、有権者として自らの判断でその権利を行使するため、最新のニュースや政治に関心を持ち、投票に行くようにしましょうと話をしました。

平成29年度みやぎ学力状況調査結果が出ました！

7月4日(火)に実施した「みやぎ学力状況調査」結果が公表されましたので、その概要をお知らせします。この調査は、学習指導要領に示された指導内容の定着状況と、生徒の学習状況、心の有様及び志教育に係る意識等を調査分析し、学習指導や進路指導の改善に役立てるために毎年実施されるものです。2年次は国語、数学、英語の学力状況調査と質問紙調査を実施し、1年次は質問紙調査のみ実施しました。結果は、下表のとおりです。

なお、詳細につきましては、11月18日(土)の1,2年次PTAの際に御説明します。

<学力状況調査 平均正答率>

2年次	H28	H29
国語B	51.2%	42.7%
数学B	33.1%	31.1%
英語B	42.5%	39.9%

<質問紙調査>

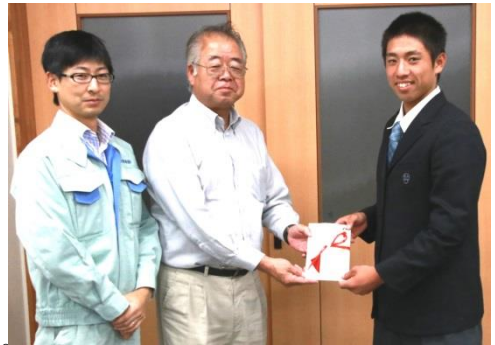
2年次	H26	H27	H28	H29	県平均
授業が分かる	38.6%	50.3%	57.0%	53.3%	50.9%
平日学習している	79.5%	82.5%	87.2%	71.1%	69.7%
平日2時間以上学習している	9.7%	13.0%	18.1%	15.8%	13.8%
休日2時間以上学習している	30.7%	30.5%	38.9%	35.5%	31.0%

1年次	H26	H27	H28	H29	県平均
授業が分かる	49.4%	55.3%	57.6%	55.6%	55.8%
平日学習している	92.2%	90.8%	92.1%	95.4%	81.2%
平日2時間以上学習している	20.0%	20.4%	26.5%	49.7%	19.4%
休日2時間以上学習している	43.3%	44.1%	49.0%	72.8%	40.8%

野球部に寄付をいただきました！ ありがとうございます。

10月12日（木）、旧角田高校第20回卒業生で、今年の8月まで同窓会副会長を務められた石川建設株式会社の石川日出夫様から、秋季高校野球県大会でベスト4になった野球部に対し、今後の活躍を期待して50万円の寄付をいただきました。また、9月20日（水）には、今年の8月まで同窓会会長を務められた石黒勝昌様にもボールを寄贈していただきました。ありがとうございました。

同窓生はじめ地域の皆様の温かい応援に感謝申し上げますとともに、今後も御支援をよろしくお願いいたします。



陸上部東北大会出場おめでとう！

9月8日（金）～11日（月）に、ひとめぼれスタジアム宮城で開催された宮城県高校新人陸上競技大会で、2年 古山凜君が男子400mハードルで第2位、2年 佐藤聡太君が男子やり投げで第3位に入賞し東北大会に出場しました。

また、仙南新人大会では、男子バドミントン部が7年ぶりの団体優勝を決めたほか、サッカー一部は新人大会仙南地区予選の順位決定リーグで白石高校に2対0で勝利して県大会出場を決め、女子卓球部も仙南地区高校新人卓球大会の代表決定戦で第6代表に決定し、統合以来初の県大会出場を決めるなど、新人大会での各部の活躍がありました。

県大会での活躍に期待します。

●特別寄稿 その2 「選択の味」 教諭 齋藤克也

先日、大学時代のアルバムを見返していたら、上野君のことを思い出した。

上野君は私と同じ国文学専攻の学生で、見た目が教授風だった。クセの強い髪の毛に、無精ひげをたくわえ、履き潰したページのチノパンに、ジャケットを着て、茶色のショルダーバッグを肩にかけていた。大学2年の頃から、上野君とは同じ授業を受ける機会が多かった。そして3年になると偶然にも同じ研究会に所属することとなった。そうして彼に直接話を聞いてみると、彼はある国立大学の医学部を中退し、この大学の文学部に入り直したという。だから年齢は当時27歳くらいだったと思う。医学部をやめた理由は、「現代の医学に絶望した」というようなことを言っていた。医学部を中退し文学部に進むという経歴自体、ある小説のK君のように変わっているが、さらに上野君は、今「マタギ」の研究をしているらしい。「マタギ」とはかつて東北地方の山間部を中心に、クマなどの大型動物の狩猟を生業としていた集団のことだ。上野君のマタギ研究への大転換話に、当時私はひどく感心したのを覚えている。現在上野君が何をしているのかは知らない。卒業後は大学院に進んだと思うのだが、今も我が道を進んでいけばいいと思う。

一方この頃の自分はというと、やりたいことが一つに定まらずにいた。ただ心のどこかに「先生」という仕事に対する思いはあった。実は民間企業に就職するつもりでいて、某出版社の面接を受けたことがあった。面接で「印象に残っている漫画は？」と聞かれたので、教師を主人公にしたとある漫画の話をした。その時、「私はこの漫画の主人公みたいな教師になりたいんですよ」と言ってしまったのだ。出版社の面接試験の最中である。その面接の後、教員を目指す決断をした。

「マタギ」に傾倒した上野君の選択も、その時「教師」を選んだ私の選択も、正解なのかわからないが、大切なのは自分の意志で選んだということなのだと思う。誰もが人生の要所で選択を迫られ、高校生も進路という現実を突きつけられる。周囲に流されながら進むのは楽だけど、後悔する。後悔のない選択はないかもしれないが、自分で選んだ結果の後悔は後味がいい。皆それぞれが、そんな後味（ちょっと苦い）を噛みしめながら、前へ進んでいく。そしてその選択の味を噛みしめながら、今日もゆっくり、臥牛が丘を登る。